

「魔法の言葉」

今日から5月です。玄関前駐車場のつつじが満開になっています。木々の新緑が目まぶしい季節です。今年度がスタートしておよそ1ヶ月が経ちました。新しい仲間と共に過ごす学園生活はいい感じですか。

仲間と共に過ごすとき心がけてほしいことが、プラスの言葉を使うこと。クラスで、部活動で、よい人間関係を築きたい今だからこそ、ぜひ考えてほしいことです。プラスの言葉でその空間が満たされると「よし頑張ってみよう」という気持ちになるものです。5月は、初めての定期テストがあります。そしてその後、総体もはじまります。みなさん1人ひとりのちょっとした心がけが、より充実した学園生活を創ることにつながるのではないのでしょうか。今日は、次の文章を紹介します。

職場でも学校でも、まわりの人から、「ダメだ、ダメだ、ダメだなあ」と言われ続けると、言われた人は、次第に自信をなくし、いつか、本当にダメになってしまいます。

反対に、まわりの人から「いいね、いいね、それいいね」と言われ続けると、自信がついて、やる気になって、元気が出てきます。明るい表情のいい顔になって、行動もイキイキしてきます。イキイキしているから、いろいろなことが、うまくいくのです。

だからあなたは、人にも自分にも、「ダメだ」なんて言わないで。「いいね、いいね、それいいね」カラダの中からグングンと、勇気と希望が湧いてくる。

「いいね、いいね、それいいね」心の奥からムクムクと、やる気と元気が湧いてくる。

魔法の言葉を口ぐせに…。

中井俊巳著『元気が出る魔法の口ぐせ』(PHP文庫)より

みなさん1人ひとりの「魔法の言葉」で、より素敵な学園を創っていきましょ
う。

教頭 松浦 亮